

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021 年 11 月

「天国で」「この世の終わり（1）」「律法と福音」「カボチャと豆のアヒージョ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「この世の終わり (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

In Heavenly Places

現代の真理

「律法と福音」

41

キリストと律法

力を得るための食事

「カボチャと豆のアヒージョ」

44

レシピ

お話コーナー

「はじめに戻る (II)」

46

聖書物語

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話 : 0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話 : 0980-55-8136

発行日 2021 年 10 月 3 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page
48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

聖書に対する愛をつちかう最上の手段

わたしたちの信仰の最も大切な点を…記憶に刻まねばならない。彼らはそうした真理の一端を知っているが、喜んでそれを研究するほどには良く知ってはいない。…頭脳を健全にし、きよめる影響を与えるようなものを読まなければならない。真の宗教とは、どういうものであるかを見分けることができるためにはこのことが必要である。良い読み物でも、きよめる力のないものがある。…

今、わたしたちは危機にあつて、真の敬虔を見分けることを知らねばならないということを彼らに告げよう。わが青年たちを助け、高め、励まされねばならないが、それも正しい方法でなされねばならない。それはたぶん彼らの望まない方法かもしれないが、彼らにきよめられた心を持たせるのに助けとなる道である。彼らは他のどんなものよりも、立派な、きよめる力を持った宗教を必要としている。(青年への使命 285)

書籍そのものは有害ではなくても、書籍の増加と言うことは一種の積極的な悪であると言えるかもしれない。出版社からたえず送られてくる印刷物の大洪水のために、老人も若い者も、大急ぎで上滑りな読書をする習慣がつき、一貫した健全な思考力が失われる。その上エジプトのかえるのように、全地に広がりつつある書籍雑誌の大部分は、平凡で、人の心を怠惰に弱々しくするばかりでなく、また不潔で愚劣なものが多い。それは人の思考をまひさせて無力にするばかりでなく、魂を墮落させ滅ぼす力を持っている。怠惰で、目的もたない心と魂は、たやすく悪のとりことなる。…怠惰な心はサタンの職場である。…

聖書に対する心からの愛が目覚め、その広い分野と、そのとうとい宝がわかり始めると、神のみ言葉を知るためには、あらゆる機会を逃すまいと望むようになる。そして時間や場所に制限されないで聖書を研究するようになる。このように絶えず研究することが聖書に対する愛をつちかう最上の手段の一つである。(教育 225, 227)

第25課 この世の終わり (I)

虐殺か調和か

「この世の終わり」は、しばしば冗談のようにも、また恐怖のうちに表現されます。その現実をよく推測はされていますが、ほとんど理解されていません。世の状態はこの世は不安定さを暗示しています。科学者たちは、人類の生活様式のゆえに多くの理由から生じる問題を予見しています。わたしたちの惑星が退廃することに対して管理能力がなく、社会は反発しています。それでありながら、多くの人々は自らごまかすか、あるいは現代の生き方の一部として避けられないと盲目的に受け入れています。

この世は、原子力反応による大虐殺によって終わるのでしょうか。あるいは、軌道から外れた惑星、オゾン層の破壊、焼畑や土地の荒廃、あるいは「氷河期」の再来によって、この世は終わるのでしょうか。わたしたちはやがて人口爆発や自然環境の乱用によって自らを滅ぼすのでしょうか。

あるいは、わたしたちは今にも、社会における不調和を解消し、繁栄をもたらし、自然環境を回復保護するための大改革や発見をしようとしているのでしょうか。または、平安の千年紀の到来を告げるために、人生の権利や諸原則を回復しようとしているのでしょうか。

もしわたしたちに任されているとしたら、人類はどの道へ向かうのでしょうか。はかりは、どの方向に傾くのでしょうか。何がスイッチを押すのでしょうか。わたしたちが完全に神のみ言葉に信頼するならば、これらの答えは明確です。神のみ言葉は、いつ、どのように、なぜ、この世の終わりが到来するのかを説明しています。

この世の終わりに関する預言

預言者エゼキエルは、この世の終わりが平穏と共にではなく、多くの悩みと共に到来することを見ました！

「人の子よ、イスラエルの地の終りについて主はこう言われる、この国の四方

の境に終りが来た。…主なる神はこう言われる、災が引き続いて起る。見よ、災が来る。 終りが来る。その終りが来る。それが起って、あなたに臨む。見よ、それが来る。この地に住む者よ、あなたの最後の運命があなたに来了。時は来た。日が近づいた。混乱の日で、山々に聞える喜びの日ではない」(エゼキエル 7:2, 5-7)。

この世の終わりに関する聖書の預言は常に、キリストの再臨とつながっています。弟子たちは、この世の終わりが来ること、またその終わりが救い主の再臨とつながっていることを理解していました。「…どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」(マタイ 24:3)。

イエスが麦と毒麦(すなわち、神の子らと悪の子ら)の譬について説明されたとき、次のように言われました。「…収穫とは世の終りのことで…」(マタイ 13:39)。

わたしたちが、起ころうとしていることを知ることができるように、少なからぬ指示と多くの預言が与えられてきました。今日、しるしを見ることができます。ですから、だれも知らずにいるべきではありません。

「終りの時」に関するしるし

1. 政治の世界におけるしるし

この世における多数の国々は、高い地位を求めて努力を費やしています。暴力や戦争、軍拡や軍隊は、まぎれもない悲しい現実です。「戦争と騒乱とのうわさを聞くときにも、おじ恐れるな。こうしたことはまず起らねばならないが、終りはすぐにはこない」。それから彼らに言われた、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう」(ルカ 21:9,10)。

最も弱い小国でさえ、自分たちのいわゆる大いなる地位を維持するために、自国の力を示そうとするようになることが、あらかじめ預言によって述べられています。「もろもろの国民の中に宣べ伝えよ。戦いの備えをなし、勇士をふるい立たせ、兵士をことごとく近づかせ、のぼらせよ。あなたがたのすきを、つるぎに、あなたがたのかまを、やりに打ちかえよ。弱い者に『わたしは勇士である』と言わせよ」(ヨエル 3:9, 10)。

諸国の著名な代表者たちは、条約を締結するために諸国家間に存在する既

存の問題について協議をしている一方で、彼ら自身の国は、武器を備蓄し、また軍事演習をしています。

「人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない」(テサロニケ第一 5:3)。

2. 社会におけるしるし

「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい」(テモテ第二 3:1-5)。

この世の終わりにおける人々が主に考えていることは、飲むこと、パーティー、スポーツ、この世の日常生活の心配ごとであり、神や救いを忘れています。「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう。ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう」(ルカ 17:2, 5-7)。

個々人の間において憎しみが増し、自然な愛情がまったく失われ、家族の中においてさえ、そのような状態になります。「また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう」(マルコ 13:12)。

ストライキ、失業、強奪が起こるようになります。一方においては多大な富が存在するかたわら、他方では深刻な貧困が存在します。「富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ、金銀はさびている。そして、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食いつくすであろう。あなたがたは、終りの時にいるのに、なお宝をたくわえている。見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れをさせながら、

支払わずにいる賃銀が、叫んでいる。そして、刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している。あなたがたは、地上で過ごし暮し、快楽にふけり、『ほふらるる日』のために、おのが心を肥やしている。そして、義人を罪に定め、これを殺した。しかも彼は、あなたがたに抵抗しない」(ヤコブ 5:1-6)。

神や人類同胞に対する愛は、ほとんど絶えてしまっています。

天国で

In Heavenly Places



11月

世に対するわたしたちの使命

「あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。」(ヨハネ 17:18)

神のご命令に服従して世から分離することによって、わたしたちは主がわたしに残された働きに不適任な者となるのであろうか。それによって、わたしたちが自分の周りにいる人々に善を行うことが妨げられるのであろうか。否、わたしたちが天をかたぐつかめばつかむほど、わたしたちの有用性への力は大きくなるのである。わたしたちは、原型であるお方を研究すべきである。それはキリストのうちに宿る精神がわたしたちのうちに宿るためである。救い主は世で高められ誉れを受けた人々の間では見出されなかった。このお方は自分たちの安逸や楽しみを探し求めている人々のためには、ご自分の時間を費やされなかった。このお方は助けを必要としていた人々を助けるために、失われ滅びつつある人々を救うために、かがんだ者たちを引き上げるために、奴隷のくびきにつながれている人々の圧制のくびきを打ち砕くために、苦悩している者を癒すために、そして苦しみ悲しんでいる者に同情と慰めの言葉を語るために働かれた。わたしたちはこの模範に従うように要求されている。わたしたちがキリストの精神にあずかればあずかるほど、わたしたちは自分の同胞である人々のために何かすることを求めるのである。わたしたちは、困窮している人を祝福し、苦悩している人を慰めるようになる。

.....

恩恵期間は閉じようとしている。……まもなく、罪人のための最後の祈りがさげられ、最後の涙が流され、最後の警告が与えられ、最後の嘆願がなされようとしている。そしてあわれみの優しいみ声は、もはや聞かれなくなるのである。これが、サタンが男女を自分のわなに捕らえておこうとこれほどまで甚大な努力を払っている理由である。……敵はすべての魂で人生ゲームをしている。彼は、わたしたちからすべて霊的な性質のものを取り除き、キリストの尊い恵みの代わりに、わたしたちの心に肉の性質の邪悪な特質、すなわち憎しみ、邪推、嫉妬、世への愛着、自己愛、娯楽への愛着、そして持ち物の誇りをつめ込もうとしている。わたしたちは入ってくる敵に対して防備をしなければならない。……なぜならわたしたちが見張りつつ祈るのでなければ、これらの悪が心に入り、善なるものをすべて押し出してしまうからである。(レビュー・アンド・ワールド 1900 年 1 月 2 日)

キリストの弟子の上におかれた責任はいかに重大なものであろう。天の光を闇に取り囲まれた世に反射させる義務とは何と緊急を要するものであろう。取り囲む暗黒が深ければ深いほど、クリスチャンの信仰とクリスチャンの模範の光は明るく輝き出るべきである。(同上 1888 年 10 月 23 日)

11月2日

暗黒の闇と戦う

「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。」(イザヤ 60:2)

至るところに蔓延している悪を識別するために目を開いてきた者たちに、この時代は悲しい光景を提示している。神の畏れと愛はほとんど世から去ってしまった。この時代はイザヤによって「暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう」と預言された時代である。多大な群衆が信仰のない世代のまやかしによって迷い出され、過ちの闇の中に生きている。……

有害な不信の精神が至る所で見られ、また社会のあらゆる階級に浸透している。それは、何の制限もなく多くの諸大学や高等学校で教えられている。そしてそれは、一般の学校や保育園の科目にさえ入ってきている。クリスチャンだと公言する何千もの人々が偽りの霊に注意を払っている。……

今日、世はキリスト・イエスの聖徒たちの人となりのうちに表されるこのお方の啓示を緊急に必要としている。神はご自分の民が世の前で聖なる民として立つことを望んでおられる。なぜであろうか。それは、福音の真理の光によって救われなければならない世があるからである。そして、人々を闇から神の驚くべきみ光へと呼び出す真理のメッセージが、教会によって与えられるとき、真理の御霊によって聖化された教会員の生活が、宣布されるメッセージの真実性に対する証を担うべきである。……

世は实际的なキリスト教を見る必要がある。キリストに従うと主張する者たちが不信の世に対して見せ物になっているという事実を考えると、彼らが神との正しい関係にあるということを確かめるのは彼らにとって義務である。……世にあつて光となるために、彼らの上には絶えず義の太陽のはっきりとした光が輝いている必要がある。……

神の民が悪から完全に分離することによって、このお方が天の光を彼らの上にもっと豊かにとどまらせ、そして彼らから世に輝きださせることがおできになるとき、そのときこそ、過去に成就してきたどの時にも勝って完全にイザヤの預言が成就するのである。……「もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。……海の富が移ってあなたに来、もろもろの国の宝が、あなたに来るからである」(イザヤ 60:3-5)。(レヴィ・アソド・ハルド 1910年3月31日)

起きよ、光を放て

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。」
(イザヤ 60:1)

特別な意味においてセブンスデー・アドベンチストは世における見張り人として、また光を担う者として立てられてきた。滅びつつある世のための最後のあわれみの使命が彼らに託されてきたのである。彼らの上に神のみ言葉からすばらしい光が輝いているのである。では、彼らは、どのような種類の人々になるべきであろうか。……

世の前で、ご自分の民にあつてご自分に栄光を帰せられるというのが、このお方のご目的である。このお方は彼らを、ご自分がかぎりない愛とあわれみを注ぎだす水路にしたいと切望しておられる。……わたしたちは、主の助け、すなわち闇の強力な勢力に対する主の助けを求めよう。サタンは、魂を奴隷にし、破壊するという強烈な目的をもって働いている。わたしたちは、堅くたつて彼に対抗しよう。神の奉仕へ完全に献身している人は、闘いに備えて強くされる。彼は、「すべての力」によって強くされる。自分の弱さを感じ、ヤコブのように「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」(創世記 32:26)と言って神と格闘する人は、聖霊の油を新たに注がれて出て行くのである。天の雰囲気は彼を取り囲む。彼は良いことをしながら巡回する。彼の感化力は、キリストの宗教にとって好ましい実際のな力である。

神は、キリストから来る光と平安と喜びで世を満たす光の担い手を求めておられる。このお方はへりくだった人々、自分たちの弱さを自覚し、神の奉仕が自分たちに何を求めているか、すなわちキリストの恵みの力を表す言葉と行動の適正さを覚えている人々を召しておられる。……

時は貴重である。魂の運命が測られている。神はご自分の裁きを差し控えておられる。メッセージがすべての者に伝えられるのを待っておられるのである。この時代のための人を試す真理のメッセージを聞いたことがない者が多くいる。あわれみの最後の召しが地に行きわたって宣布されなければならない。天のみ使いたちは、……なされるべき偉大な働きにおいて自分たちと協力する人間を待っている。彼らはあなたを待っているのである。畑は非常に広く、計画は非常に幅広いので、すべての聖化された心は神の御力の代理人として奉仕に押し進んでいくのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1905 年 11 月 23 日)

11月4日

生活に表される光

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:16)

暗い夜に他人の足を導くために光を持っているとき、しばしば光を担う人が不注意になって、光と自分が案内をしている人々との間に自分自身の体をさしはさんでしまう。こうして、ついてきている人々は光の恩恵を失う。これは真理の光を他人に掲げている人たちの場合も同様である。彼らは自分自身の利己的な関心や、自分たちの献身の欠如、自分たちの誤り、自分たちの品性の欠点をあらわす。また自分たちの行動に影響を及ぼし、自分たちの暗い体ばかりを目立たせて、彼らが信じると公言する真理によってはだれ一人恩恵をこうむることがないようにするものを何でもあらわすのである。

真理の光が、輝き出されるべきである。こうして、真理を知っている人々の一連の正しい行動を見ることによって、人々が真理には力があるということの人々が認めることができるためである。なぜなら、真理の光がそれを受け入れた人々のためにこれほどすばらしい働きを成し遂げたからである。彼らは、真理の代表者たちの生活のうちに輝き出る聖潔の原則にまったく心を奪われてしまう。そして、彼らは真理を受け入れ、今度は自分たちが世に対する光となるために、この神に献身することによってこのお方に栄光を帰するのである。(原稿 63, 1912 年)

アブラハムや他のいにしへの聖なる人々はその時代において光であった。同様に神の民は世において光でなければならない。ただ善にして正しい道だけを示し、常に神の律法が人間のいかなる法令にも勝っていることをあらわしつつ、天の魅力的な麗しさがわたしたちから輝き出るべきである。聖書の宗教は、闇の中に埋もれているべきではない。それは、吟味されることを大いに歓迎するのである。わたしたちの行く道を照らす新たな光線が追加されるたびに、それは神のご計画において、新たな力の要素、すなわち世を神へと引きつける力を追加するのである。(ユース・イン・ストラクター 1897 年 3 月 4 日)

キリストは「あなたがたは世の光である」と宣言される。キリストはご自分の教会にとって光と力の源である。もし、心が純潔で正しいならば、もしそこに信心が宿っているならば、それは生活に表される。それは、会話や人間とその同胞のあらゆる関係に浸透するのである。彼はキリストのみ言葉を行う者である。……彼のすべての行いは、聖なる輝きを放っている。彼は力を着ている。なぜなら、神のご臨在が彼と共にあるからである。(原稿 104, 1898 年)

天への道で光を担う者

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪惡な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:15)

各時代において、「自分たちのうちにいますキリストの霊」は真の神の子供たちをその世代の人々の光としてきた。ヨセフはエジプトにおいて、光を担う者であった。彼の純潔と寛容と子としての愛において、彼は偶像礼拝者の国家のただ中でキリストを表した。イスラエル人たちがエジプトから約束された地に帰る道中、彼らの誠実な者たちは、周囲の国々にとって光であった。彼らを通して、神が世に表されたのである。バビロンにおいてダニエルと彼の友人たちから、ペルシャにおいてはモルデカイから、王宮の闇のただ中で明るい光線が輝き出たのであった。

同様にキリストの弟子たちは天への道中に光を担う者として立てられている。彼らを通して、天父のあわれみといつくしみが神の誤解の闇に覆われている世に対して表されるのである。彼らの良い行いを見ることによって、他の人々には上におられる天父に栄光を帰するように導かれる。なぜなら、宇宙の王座には、そのご品性を賛美し模倣するのにふさわしい神がおられることが明らかにされるからである。心のうちに燃える神の愛、生活の中に表されるキリストのような調和は、世にいる人々に与えられた天のひとひらめきである。……世はクリスチャンであると公言する人々がどんな実をみのらせるか見ようと見張っている。世には、先進的な真理を信じると主張する者たちから自己否定と自己犠牲を見ようとさがす権利がある。……

神の働きが、世に対してはっきりとした聖なる方針のうちに提示されるようにと神はお定めになった。このお方はご自分の民が彼らの生活によって、キリスト教の世に勝る優位性を示すようにと臨んでおられる。このお方の恵みによって、わたしたちのすべての商売上の取引において世の原則に勝る天の原則の卓越さを示すよう、わたしたちのためにすべての備えがなされてきた。わたしたちは自分たちが世俗の水準よりも高い水準で働いていることを示さなければならない。万事において、わたしたちは品性の純潔を示し、受け入れ従う真理は、受け入れる者を神のむすこ娘たち、すなわち天の王の子供たちとすること、そして、彼らはその取引において正直であるように、生涯の小事にも大事にも忠実で、真実であることを示さなければならない。(ビュー・アンド・ワルド 1905年7月27日)

11月6日

世に真理をまく

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。」(マタイ 28:19, 20)

キリストが地を去っていく前に最後になされたことは世にご自分の真理を持って出て行く任務をご自分の弟子たちに託されたことであった。このお方の最後の言葉は、弟子たちに、世のための天のメッセージが自分たちに委託されたという考えを印象付けるために語られた。……

もしわたしたちが、イエスがどれほど熱心に福音の種を世にまくために働かれたのかを悟りさえするならば、この恩恵期間がまさに閉じようとしている時代に生きているわたしたちは、滅びつつある魂に命のパンを与えるために倦まずたゆまず働くことであろう。……

神はすべての教会員にご自分の奉仕に入るよう召しておられる。そのとおりに生きていない真理、他人に分け与えられていない真理は、命を与える力も、その癒しの力も失ってしまう。すべての者が働き、くびきを担う者として自分の分と場所に立つことを学ばなければならない。教会に一人加わるということは、偉大なあがないの計画を実行するための働き人が一人増えることを意味するべきである。教会全体が、ひとつになって働き、完全な一致のうちに溶け合って、生きた、活動する伝道機関とならなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1909年4月29日)

わたしたちが受けるとき、与えるべきであるというのが天の法則である。クリスチャンは、他人の益とならなければならない。こうして、彼自身が益を受けるのである。「人を潤す者は自分も潤される」(箴言 11:25)。これは単なる約束ではない。これは、神の神聖な統治の法則であって、これによって神は、慈善の小川がいつも流れ、深淵の水のように絶えざる循環のうちに永久的にその源へと流れ返るようにと計画しておられる。この法則の成就することに、クリスチャンの使命の力がある。……

わたしたちには永遠のために準備する時間はもうわずかしかない。……信徒たちの体全体が、神の聖霊によって生き返らされる必要がある。わたしたちは、研究し、計画し、儉約し、わたしたちが苦しんでいる無知な人類のところへ行って祝福することができるように、可能な限りすべての資金を活用するべきである。神がわたしたちに民として与えてくださった光は、わたしたちが自分たち自身の間で積み上げておくためではない。わたしたちは全世界に真理の光を携えるというキリストのすべての弟子に与えられた偉大な任務に調和して行動しなければならない。(同上 8月12日)

最も強力な論拠

『「ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない。……あなたがたは、「わたしが神である」ことを証するわが証人である」と主は言われる。」(イザヤ 43:11, 12 英語訳)

主に真に従う者たちについて、このお方は「この民は、わが誉を述べさせるために、わたしが自分のために造ったものである」と仰せになった(イザヤ 43:21)。彼らは、背教した世にあって、わたしの証人であり、わたしが選んだ代表者たちである。……

神はわたしたちの協力を求めておられる。このお方のご要求は正しく理にかなっている。……わたしたちがキリストの名を語るとき、自らこのお方を代表することを誓うのである。わたしたちが自分の誓いに対して真実であるためには、栄光の望みであられるキリストがうちに形成されなければならない。日常生活はますますキリストの生涯のようにならなければならない。わたしたちは行いと真理においてクリスチャンにならなければならない。キリストは見せ掛けとは何の関係もない。このお方は、自分のキリスト教が本物である者たちだけを天の宮廷に歓迎してください。キリストの生涯を送っていない自称クリスチャンたちの生涯は宗教に対するあざけりである。(レビュー・アンド・ヘルド 1904 年 1 月 14 日)

神はわたしたちに何か高価な犠牲によってこのお方の恩寵を買うようにとは仰せになっていない。このお方は、このお方の無償の賜物を喜んで感謝して受け、へりくだり献身した心の奉仕だけをお求めになる。キリストを自分の個人的な救い主として受け入れる者は、キリストによって提供された救いを自分のものとしている。そして彼は、自分が、ただで受けたのだから、ただで与えるのだということを決して忘れてはならないのである。(手紙 8, 1901 年)

あなたは神の御目に見る自分の価値を悟っているであろうか。このお方は、あなたはわたしと共に働く者であると仰せになる。あなたは、墮落した世に対してあなたの光がはっきりとした光線を放つようにしているであろうか。あなたは、神があなたに与えてくださったすべての機能とすべての力を働かせているであろうか。あなたは牧師とはならないかもしれないが、証人にはなることができる。あなたは、雄弁に語ることはできないかもしれないが、キリストに生きることにおいて雄弁となり、あなたの光が人々の前に輝くことにおいて雄弁になることができるのである。(原稿 21, 1895 年)

真実で愛すべきクリスチャンは、聖書の真理を有利に推し進めることのできる最も強力な論拠である。そのような人がキリストの代表者である。彼の生涯は、神の恵みの力に対して担うことのできる最も説得力のある証拠である。神の民がキリストの義を日常生活に持ち込むとき、罪人は改心させられ、敵に対する勝利を得ることができるのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1904 年 1 月 14 日)

11月8日

境界線はない

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう』。」(ヨハネ 8:12)

イエスに従う者たちは、神の共労者である。彼らは、闇のうちに歩むことがなく、世の光であられるイエスが道案内をなさる真の道を見出すのである。そして、彼らがシオンに向かって自分たちの歩を進め、信仰のうちに前進するとき、彼らは神の事柄において輝かしい経験を得るようになる。神のみ座からカルバリーの十字架の祭壇の奥義へとこのお方を召したキリストの使命は、あまりにもぼんやりとしか理解されておらず、かすかにしか把握されていないが、徐々に思いに明らかにされていく。そして、キリストの犠牲のうちに他のすべての愛の使命の泉と原則が見出されるのだということがわかるようになるのである。……

イエスはご自分に従う者たちに、彼らはユダヤ人にもギリシャ人にも、賢い者にも無知な者にも、負債を負っているということをお教えになった。そして彼らに、人の作った人種の区別、階級性、隔ての境界線は天では承認されていないこと、そして福音を広める働きにおいては何の影響も及ぼしてはならないことをお教えになった。キリストの弟子たちは自分たちの隣人と自分たちの敵の間に隔てを置いてはならなかった。かえって彼らは、すべての人を、助けを必要としている隣人とみなし、そして、彼らは世を、失われたものを救うための働きの自分たちの畑として考えなければならなかった。イエスはすべての人にその働きをお与えになり、彼らを利己心が指図していた狭い輪から引き上げ、領土の境界線やあらゆる人工的な社会の区別を消滅なさった。彼は伝道の熱心さのためにいかなる限度も設けられなかった。かえって、このお方はご自分に従う者たちに地の最果てまでその働きを広げるようにとお命じになった。……

主イエスは万物においてわたしたちの力である。このお方のみ霊がわたしたちの靈感とならなければならない。そして、わたしたちが光の水路となるために自らをこのお方のみ手のうちに置くとき善を行うためのわたしたちの資金は決して尽きることがない。なぜなら、イエス・キリストの力の資源は、わたしたちの思いのままだからである。わたしたちは、このお方の満ちみちた徳に近づき、無尽蔵の恵みをそこから受けることができる。わたしたちの救いの将は一步ごとに、全能の力が生きた信仰の思いのままであることをわたしたちに教えてください。このお方は「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」と仰せになる。しかしまた「そればかりか、もっと大きいわざをするであらう。わたしが父のみもとに行くからである」と宣言なさるのである。(ビュー・アンド・ワールド 1894 年 10 月 30 日)

すべての人がわたしたちの隣人である

「すなわち、聖徒たちのうちで最も小さい者であるわたしにこの恵みが与えられたが、それは、キリストの無尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え」(エペソ 3:8)

大多数の人の心の中には、真理と義に対する敬意がほとんどない。神とみ言葉に対する不信仰がいたるところに表れている。……このような状態が世に蔓延しているが、わたしたちは、自分の家庭に閉じこもり、わたしたちに要求されているのは真理への同意だけであると考えてはならない。キリストは世の罪のために犠牲としてご自身を与えてくださった。……もしあなたがあなたの心にキリストの恵みの富を持っているならば、魂の救いはあなたの与えることのできる救いの道の知識にかかっているのであるから、あなたはそれらを自分自身にとっておくことはないであろう。これらの人々があなたのところに来て、あなたに心の切望を述べることはないかもしれないが、多くの者は飢えており、満たされていない。そして、キリストは彼らのご自分の恵みの富を持つことができるようにと死なれたのである。あなたは、あなたが享受している祝福を分かちことができるように、何をするであろうか。(レ・ユー・アソド・ハルド 1910 年 1 月 6 日)

あなたはあなたの助けを必要としている人たちと知り合いになるために努力しているであろうか。あなたは魂をキリストに勝ち取るための自分の機会や利点や資金を用いているであろうか。あなたは、わたしは牧師ではないから真理を説教することはできないと言うかもしれない。あなたは一般的に受け入れられている言葉どおりの牧師ではないかもしれない。あなたは説教壇に立つようにと召されることが一度もないかもしれない。しかし、あなたはキリストのための牧師となることができる。もしあなたがあちらに一人、こちらに一人いる魂に一言語るために姿を表す機会を見張っているならば、神はあなたを通して心をご自分に勝ち取るための言葉を語られるのである。……ここで一言、あちらで一言、人々の前に救い主を掲げ、彼らをより高尚で清潔な目的へと導く言葉を語りなさい。(同上)

恵みにおける成長は、神のために働く能力が増加することに見られる。キリストの学校で学ぶ人はどのように祈り、主人のためにどのように語るかを知るのである。自分が知恵と経験に欠落していることを悟り、彼は自らの身を偉大な教師の訓練の下におく。こうすることによってのみ、彼は神の奉仕において完全を獲得することができることを知っているからである。そして、毎日彼はますます霊的な事柄をよりよく理解できるようになる。日毎の勤勉な働きによって、彼は、より他人を助けるのに適した者となるのである。キリストにつながり、彼はたくさんの実を結ぶのである。(同上 1909 年 4 月 29 日)

天の宇宙の前で

「こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。」(コリント第一 4:9)

神はご自分の子供たちが世に、天国でキリストにあつて共に座するという意味が何であるかを示すようにと望んでおられる。「それは、キリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった」(エペソ 2:7)。このお方はわたしたちが互いを取り扱う際、この親切を持ち込むようにと期待しておられる。……

主はご自分の子らが、互いにキリストの血で買われた者として尊ぶように望んでおられる。彼らはこうするとき、彼らは天国でキリストにあつて共に座するという意味が何であるかを知るようになる。わたしたちの唇は、神の祭壇からの炭火によって聖化される必要がある。そのとき、わたしたちはキリストの義の香りで満たされた永遠の、精錬された、高尚な言葉、すなわち命から命へと至らせる言葉を語るのである。

キリストはご自分に従う者たちがご自分に似た者となつてほしいと望んでおられる。なぜなら、このお方は家庭の輪において、教会において、そして世において、ご自分が正しく表されることを望んでおられるからである。このお方は自分自身に注意を払ってほしいと望んでおられる。わたしたちがこうするとき、忙しくしているのに十分なだけのものがあることに気づくのである。わたしたちはキリストを自分たちの能力、自分たちの力として受け入れなければならない。それは、このお方のご品性が世に表されるためである。これはクリスチャンとしてわたしたちに委ねられた働きである。わたしたちは天の恵みの力を証ししなければならない。

しかし、接触する人たちを傷つける、いが栗のような者たちが多くはないだろうか。……キリストを代表する者たちは荒々しく話さない。彼らの言葉は心地よく助けとなるものである。「愛にあつて真理を語り」(エペソ 4:15)。

神はご自分のむすこ娘たちがサタンの会堂の前で、天の宇宙の前で、世の前で、このお方の恵みの力を表わすように望んでおられる。それは人と御使いたちがキリストの死が無駄ではなかったことを知るためである。わたしたちは世に、高いところからの力を持っていることを示そうではないか。……神の民が自分たちの陥ったわだちから抜け出て、神と歩み、また神と語ることのできるところに来よう神が助けてくださいますように。そのとき、彼らは天の光と喜びを反射し、神ご自身、歌をもって彼らを喜ばれるのである。(原稿 38, 1901 年)

真理を探究する者

「主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。」(歴代志下 16:9)

至る所で、遠隔地でも近隣でも、真理を探り、神を畏れる男女がいる。彼らは、神がおられることを知っている。彼らはこのお方に祈りをささげている。彼らはこのお方を信頼している。彼らは、まさにクリスチャンが行動するように行動する。コルネリオの話から(使徒行伝 10 章)わたしたちは、神が導かれることを望むすべての魂を導かれることを学ぶのである。このお方はコルネリオを導かれた。このお方はご自分の僕の心を祈りのうちに引き出された。このお方はご自分の真理の光を受け入れる準備をおさせになり、このお方はすでに上よりの光を受けていた代理人を通してコルネリオの思いを啓発することをお選びになった。……主はコルネリオのすべての行動を注目しておられた。全天はこの献身的な百卒長が慈善を施し、祈るのを見守っていた。……

これは今日も同様である。主は、ご自分を探し求めるすべての魂の上にご自分の目を留められる。このお方は、助けを必要とするすべての魂に関心を持っておられる。そしてこのお方は人を過ちの闇に取り残されることなく、一步一步聖書のすべてのページから輝いている真理の満ち満ちた光へと彼を導かれるのである。……主はわたしたちのすべての行動をご覧になる。このお方は、わたしたちがクリスチャンの歩みにおいてどのような進歩を遂げたかをありのままご存知である。わたしたちの偉大な羊飼いは何と親切で、お優しいことであろう! 熱烈な関心をもって、このお方はご自分の高くすえられた御座からご自分の牧場の羊を眺め、彼らに恵みと力をお与えになるのである。……

絶えず天の代理人たちは、地にいる男女と通信している。神の天使たちが自分の周りにいる姿を見ることはできないが、それでも彼らはわたしたちのそばにいたのであり、導き、教えている。わたしたちは完全に神の霊の感化の下にいて、このお方の導きを受け入れやすい者とならなければならない。

わたしたちが同胞仲間を助けるために何かを語ったりしたりしようと印象づけられるとき、速やかに聖霊の鼓舞に答える用意があるべきである。わたしたちは神との緊密な関係のうちに生きているときにのみ、こうする用意ができるのである。慈善を施すこと、ささげられた熱心な祈りは、わたしたちがクリスチャンの働きをしていることと、自分たちの思いを神の霊の形成する感化力に従わせていることを示唆しているに過ぎない。(原稿 126, 1902 年)

11月12日

すべての人のための働き

「あなたがたはどう思うか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。」(マタイ 18:12)

失われた銀貨と迷子の小羊の譬は、最も尊い教訓を教えている。それらは、失われた人間と回復された人間という主題を扱っている。多くの、実にもっと多くの人が、もしこれらのたとえに表されているように自分たちのために働いてもらうなら、回復されるのである。……

教会員の方々、他の人々に聖書を開き、助けを必要としている人々のために伝道の働きをする重荷を神があなたに与えてくださるよう求めなさい。ある人はある方法で救い出され、他の人は別の方法で救い出されるであろうが、働きはいつも主の導かれるとおりになされなければならない。……聖書の真理が収められている印刷物が、秋の木の葉のように撒かれるようにしなさい。このお方、すなわち魂の救い主を掲げなさい。このお方を高く、より高く掲げなさい。……

偉大な主人なる働き人の精神を捕らえなさい。罪人の友であられるお方から、罪に病んだ魂にどのように仕えるかを学びなさい。このお方に従う者たちの生活から、このお方のご生涯で見られた同じ献身、またすべての社会的な要求、すべての地上の愛情を神のみ働きに従属させる同じ服従が見られなければならないことを覚えていなさい。神のご要求はいつも最優先されなければならない。キリストの模範は、わたしたちが他人の善のために止むことのない努力を払い続けるよう、わたしたちを鼓舞するものでなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1909年4月29日)

あなたには隣人がいる。あなたは、彼らにメッセージを伝えるであろうか。あなたの上に按手が行われることは決していないかもしれないが、あなたは、謙遜にメッセージを伝えることができる。あなたは、キリストがそのために死なれたすべての人が、もしこのお方を信じるなら、永遠の命を持つことができると証することができる。(原稿 2, 1905年)

神の最も経験をつんだ僕がしているのと同じ種類の働きができないからといって、怠けている者が一人も残っていないようにしよう。……水が海を覆うように、主の知識で地を満たすためになされる働きは、伝道の責任ある高い地位にある人々だけによるのではなく、また実行委員会や理事会に席を占める人々だけによるのではなく、あるいはサニタリウムや印刷所の責任者だけによるのではない。この働きは、神の導きの下で御力のうちに自分たちの分を果たす教会全体としてのみ、成し遂げられることができるのである。(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1904年3月24日)

貧しい人に対するわたしたちの義務

「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」(マタイ 25:35, 36)

世が同情を必要としているとき、世が神の民の祈りと援助を必要としているとき、世がキリストに従う人々の生活にこのお方を見る必要があるときに、その一方で神の民は、等しく自分たちの同情を注ぎだし、自分たちの祈りに力を与え、そして、自分たちのうちに神聖な模範に似た品性を発達させる機会を必要としている。

神がわたしたちのうちに、貧しい人や、不幸な人、病気の人、また苦しんでいる人を置かれるのは、この機会をわたしたちに提供なさるためである。彼らは、キリストが教会に遺産として残されたものであり、彼らは、このお方が彼らの世話をなさるような世話を受けるべきである。この方法によって、神は不純物を取り除いて、金を精錬し、わたしたちが必要としている心と品性を育成されるのである。

主は、わたしたちの協力がなくても、ご自分の働きを実行することがおできになるのである。このお方は、わたしたちの金銭、わたしたちの時間、あるいはわたしたちの働きに依存してはおられない。しかし、教会は、このお方の御目に実に尊いものである。教会は、このお方の宝石が入っている箱であり、またこのお方の群れを取り囲む囲いである。そして、このお方は、しみも傷も、その類のものが一切ない教会をご覧になりたいと切望しておられる。このお方は、語りつくせない愛をもってそれを慕いもとめておられる。これが、なぜこのお方が、ご自分のために働く機会をわたしたちに与えてくださっているかという理由である。そして、このお方は、わたしたちの働きをわたしたちの愛と忠誠のしるしとして受け入れてくださるのである。

わたしたちの中に貧しい人や苦しんでいる人を置かれることによって、主はわたしたちに、自分たちの心に何があるかを示すために、わたしたちを試しておられる。……思いと心の育成は、わたしたちが他人に優しい同情を感じて、わたしたちが自分の利益や特権を彼らの困窮をやわらげるために用いるときに、よりたやすく成し遂げられるのである。……

良い働きはわたしたちに犠牲を払わせる。しかし、まさにこの犠牲においてこそ、それらは訓練を与えるのである。これらの義務がわたしたちを、自分たちの生来の感情や傾向との戦いに入れる。そして、それらの義務を果たすことによって、わたしたちは、自分たちの品性の好ましくない特質に対して勝利に次ぐ勝利を得るのである。(教会への証 6巻 261 - 263)

世は、説教壇が何を教えるかによるよりも、教会がどう生きるかによって納得するのである。説教者は、福音の理論を知らせるが、教会の実際的な敬神は、その力を示すのである。(同上)

11月14日

「これらの最も小さい者のひとりに」

「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。(マタイ 25:40)

キリストは、ご自分の子らの必要を、ご自身の個人的な関心とされる。このお方は、ご自分の兄弟のどんな軽視や無視も、ご自分に対する軽視とみなされ、そして彼らのうちのもっとも低い者に与えられた親切も、ご自分に与えられたかのようにお考えになるのである。このお方は「『あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し……てくれたからである』。……『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』」(マタイ 25:35 - 40)。

み摂理によって豊かに祝福されながら、心の戸に錠をかけて、愛や親切の行為となって表現される寛大な心の衝動をことごとく退けている人は、主人の唇から、「あなたがたによく言うておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである」との厳粛な言葉を聞くことになる(同 45)。キリストの愛は相応した人類同胞への愛なしには、わたしたちの心に存在することはできない。……

不活動によって、身体的な、また霊的な健康を損なう。ぶどう畑で怠ける者、すなわち自分自身のためだけに生きている者は、いつも自分自身と他人に不満である。不満の影と冷たさがその顔に映し出されている。しかし、自分の主人であられるお方のように、自己から抜け出し、そこから去っている人は、自分を苦しんでいる人類を同じものとみなし、他人への同情を働かせることによって、やわらげられ、精錬されるのである。礼節、忍耐、親切がそのような人の特徴となりそして、彼の存在は、たえず喜びと祝福となる。彼の顔は真の慈善の輝きで照らされる。

自分自身の幸福を得るために最も熱心に働く人々は、みじめである。他人の利益のために自分を忘れる人は、他人に施した光と祝福が、自分自身の心に反射されてきたのであった。……わたしたちが持っているものはすべて、わたしたちに委託されたものである。しかし、このお方は、あたかも功績がわたしたち自身のものであるかのようにご自分の是認をもってわたしたちに報いてくださる。「良い僕よ、良くやった」。救い主の是認を勝ち取るのは、わたしたちのなした働きの大きさではなく、わたしたちがそれをなした時の愛と忠誠によるのである。(ゴッホ湖でのスピーチ小冊子 12 - 14)

神の栄光のために

「それは、わたしたちの神と主イエス・キリストとの恵みによって、わたしたちの主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためである。」(テサロニケ第二 1:12)

神の栄光のために非常に熱心になること、そして悲しい表情や、無分別な言葉によって、あたかも神のご要求がわたしたちの自由を制限するものであるかのような悪評をもたらさないことがわたしたちの義務である。全人格をもって、あらゆる方向から、すなわち、容貌において、気質において、言葉において、品性において、主の奉仕は良いものであるという確固とした証を担う特権がある。……

神は、ご自分の戒めを守る民を愛される。なぜなら、彼らの服従を通して、彼らは、神の聖なる御名に誉れを帰し自分たちの神への愛を証するからである。……わたしたちの信仰と激しい熱心さは、わたしたちの行く道を照らす大きな光に比例すべきである。信仰、すなわちへりくだって神に信頼する信仰は、わたしたちの家庭で、わたしたちの近隣で、わたしたちの教会で現れる。聖霊の働きは、妨げられることがないし、妨げることもできない。神はご自分を、父として、彼らが絶対的に信頼できる神として、ご自分の民に表すことを喜ばれる。……

農夫が自分たちの産物を勧めたり、展示したりするとき彼らは、最もできの悪いものではなく、一番良いものを積み上げる。女の人々は、きちんと成型され、美しくマークの押された最上級のバターの塊をもって来ようとする熱心さをあらわす。男の人々はあらゆる種類の野菜の最高の産物をもって来る。最高級品で、もっともおいしそうな果物が運ばれる。そして、それらの出来ばえが、技術のある働き人の名誉となるのである。果物の種類の多さ、すなわちりんご、桃、アプリコット、オレンジ、レモン、そしてプラム、これらは非常においしそうである。……だれひとりとして、最も見栄えの悪いものを持ってくるものはいない。かえって、その地の産物の中で選りすぐりのものを持ってくるのである。

そうであれば、クリスチャンは、この終わりの時代に、無私の行為のうちに最も魅力のある実を表して生きるべきではないであろうか。戒めを守る神の民の実があらわれて、良い働きを最も良く表してみせるべきではないだろうか。彼らの言葉、彼らの振る舞い、彼らの衣服が、最高品質をもつ実をみのらせるべきではないだろうか。その実によって彼らを見わける、とキリストは仰せになった。……教会員はキリストのご品性の尊い特質を持つ者とならうではないか。(原稿 70, 1897 年)

不屈の勇氣

「すべて主を待ち望む者よ、強くあれ、心を雄々しくせよ」(詩篇 31:24)

天の資源には限りがない。そして、それらは、すべてわたしたちの思いのままである。……キリストに従う者の前には、培うべき最高の徳、獲得すべき最大の誉れが提示されてはいないであろうか。神は、彼らをすべての人が賞を得ることのできる競争を始めるようにと召しておられる。このお方は、すべての人が勝利者となることのできる戦いに携わるようにと召しておられる。義の衣と永遠の命の冠、これが、勝利者の前に提供されている報いである。

天の宇宙の住民たちは、キリストに従う者たちがこの世で光として輝くことを期待している。キリストに従う者たちはキリストが人間に与えるために死なれた恵みの力を示さなければならない。神は、クリスチャンであると公言する者たちが、自分たちの生活の中で、キリスト教の最高の発展を表すことを期待しておられる。彼らは、キリストの代表者として認められる。彼らの働きは、キリスト教が現実であることを示すことである。彼らは、信仰の人、絶えざる成長の人……、誠実な人とならなければならない。彼らは疑問をさしはさむことなく、神とこのお方の約束を信頼するのである。

神は、人に不屈の勇氣を求めておられる。希望と信仰と信頼に満ちた人、すなわち障害によって妨害されることを拒み、最後の勝利を思って喜ぶ人を求めておられる。動かされることなく、真理の原則につき従う人には、自分の品性の最低の弱みが自分の最高の強みとなるという保証がある。天の御使たちは、自分の生涯を神とこのお方の聖なる律法に調和させるために奮闘している人のすぐ近くにいる。神は、人が「わたしは、自分の周りにある誘惑に勝利しなければならぬ。さもなければ、それらがわたしの心からキリストを追い出してしまう」と宣言する人と共におられる。彼はすべての誘惑と戦い、すべての反対に勇敢に立ち向かう。高きところから得た力によって、彼はもし制御されなければ自分を敗北させてしまう感情と傾向をしっかりと制御する。……

そうであれば、なぜ闇の権力に対して戦っている人々は、信仰と勇氣をもって前進していないのだろうか。神とキリストと聖霊は、彼らの味方である。……インマヌエルの君の血染めの御旗の下に立つ人たちは、自分がそのために戦っているみ働きを辱めるようなことを何一つしないようにしよう。キリストはご自分の兵士たちが勇敢で忠実で真実であるようにと期待しておられる。(レ・ビュー・ア・ド・ヘラルド 1904年2月18日)

恵み深い招き

「主とそのみ力とを求めよ。つねにそのみ顔をたずねよ。」(歴代志上 16:11)

神の子となる人々はこのお方に対して、自分の全力を尽くして、失われた者を尋ね求めて救い出すという義務の下にいる。……はじめキリストによって与えられた恵み深い招きは、人間の声によって伝えられ、世界にあまねく響かなければならない。「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」(黙示録 22:17)。教会はきたりませ、と言わなければならない。教会にあるすべての力は、積極的に、真理の側に従事していなければならない。キリストに従う者たちは、速やかに成就しつつある神のみ言葉の預言に世界の注目を集めるために力を注ぐことにおいて結合しなければならない。

ああ、わたしたちに委ねられている働きは何と厳粛で重要な働きであろう。この働きは、その結果が何と遠大なことであろうか。わたしたちはそれを成功のうちに成し遂げるために必要な力と知恵をどのように得ることができるであろうか。ダニエルが主を求めたように、わたしたちもこのお方を求めなければならない。ダニエルは、「それでわたしはわが顔を主なる神に向け、断食をなし、荒布を着、灰をかぶって祈り、かつ願い求めた」(ダニエル 9:3)。わたしたちは、自分たち自身の罪を告白し、互いに緊密に一致して、主をへりくだりと悔悟のうちに求めなければならない。……

わたしたちが熱心に主を求めると確実に、このお方はわたしたちの前に道を明らかにしてくださる。わたしたちの周りには、いたるところに奉仕のために開かれた戸がある。わたしたちは、なされるべき働きを祈りつつ研究し、それからその働きに信仰の完全な確証をもって取り掛かろう。わたしたちは、キリストの柔和とへりくだりのうちに静かに身を低くして働かなければならない。わたしたちの前には試練のときがあること、そしてどのようにして思いを取り扱うかを理解するために、いつも天の恵みを必要としていることを悟って働かなければならない。自分の働きのためになした努力の結果を見ることになるのは、忍耐強く、謙遜で、信心深い働き人である。民として、また個人として、わたしたちの成功は数ではなく名声ではなく、あるいは知的な偉業によるのではなくキリストと共に歩み、働くことにかかっている。(ビュー・アンド・ワルド 1909年4月29日)

声を惜しむことなく大声でよばわり、天の光があらわれるように闇の雲を退けるために、あらゆる力の源であられる方から、力を集めるべきときは今である。(同上)

11月18日

失われた罪人のための希望

「イエスは答えて言われた、『健康な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。』（ルカ 5:31, 32)

罪人、すなわちあらゆる人種と国の罪人が、キリストの使命の特別な対象であった。……すべての人がこのお方には愛しい存在であった。なぜなら、彼らのご自分の血で買われた者だからである。家庭伝道には断固とした注意が払われるべきである。わたしたちの家庭の中に、またわたしたち自身の近隣にいるすべての罪人を捜し求めよう。彼らのために個人的な努力がなされるようにしよう。最も希望のないように見える人々のために、信仰と希望と熱心な祈りのうちに、最も熱心に働くべきである。……

サタンが自分の力を最もあからさまに働かせている者たちは、救い主の大きな愛の心の同情を起こさせる人々である。このお方はいつも、失われた羊を探し、助け出そうと荒野に出ていくために囲いに集められた者たちを持っておられる。このお方は、サタンの欺きの力によって、わなに捕らえられている人々に対して最も優しい愛をお感じになる。そして、失われた羊が実際イエスによって見出されるとき、全天では、何という喜びと歓喜とがあることであろう。……

このお方のみ声は、慕い求める優しさ、嘆願、そして愛の基調のうちに聞かれる。「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる」（イザヤ 55:6, 7）。……

死すべき人間は、人の心を読むことができない。そして、しばしば外にあらわれる表面上の様子によって誤り導かれてしまう。しかし、人の心を開かれた書物のように読まれるお方は、決して判断を誤られることがない。……このお方は各々の魂を取り囲む雰囲気をご存知である。このお方は、人間の魂が生来の遺伝的な傾向と、繰り返された習慣によって当たり前になってしまった罪とに打ち勝つため苦闘がどれほど数多く、また厳しいものであるかをご存知である。

このお方は、彼はわたしのものである、と仰せになる。わたしは、彼を人間の苦悩と血をもって買い取ったのである。わたしは長く、彼のやり方、彼のわたしに対する無礼で忘恩な態度に耐えてきた。しかし尚、わたしは、生けるわたしの共労者を通して彼を悔い改めに導くことを望み見て、彼を切り倒さずにおいた。それは、わたしが彼を癒し、わたしがわたし自身の血によって洗い、清めることができるためであると仰せになるのである。（原稿 41, 1890 年）

神が導かれるところ

「このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。」
(ヘブル 12:28)

単調な生活は、霊的な成長をもたらすのに最適なものではない。ある者は、物事の当たり前の順番が変わることによってのみ、霊性の高い標準に達することができる。神のみ摂理において、神が品性建設の成功のためには、変化が不可欠だと思われるとき、このお方は生涯の順調な流れを乱される。……神は、働き人がもっと近くご自分と交わる必要があるのをご覧になる。そして、これを果たすために、このお方は彼を友人や知人から引き離されるのである。このお方がエリヤを昇天のために準備しておられたとき、このお方はエリヤが安穩に腰を据えてしまい、霊的な力を獲得するのに失敗することがないように、あちらこちらへと動かされた。そして、エリヤの感化力が多くの者を助けるための力となるようにというのがこのお方のご計画であった。……

静寂のうちに休息を得ることが許されていない者たち、一晩この場所に幕屋を張ると、明日の晩は別の場所といった具合に絶えず動いていなければならない者たちは、主が彼らを導いておられるのであり、これが彼らが完全な品性を形成するのを助ける神の方法であることを覚えているようにしよう。わたしたちが変更することを求められるとき、すべての変更において、神がわたしたちの伴侶として、案内役として、わたしたちのより頼むお方として認められるべきである。……

多くの人々はどのようにして神のために働くかについて無知である。それは彼らが無知である必要があるからではなく、彼らがこのお方の訓練に服したくないからである。モアブは、失敗として語られているが、それは、預言者が宣言したとおり、「モアブはその幼い時から安らかで……器から器に、くみ移されなかったように、捕え移されなかったので、その味はなお存し、その香気も変ることがない」(エレミヤ 48:11) からである。こうして、その悪への遺伝と培ってきた傾向を持つ者たちは、それらから清められないのである。……

クリスチャンは、親切、寛容、忍耐、優しさ、辛抱を表す働きをなす準備ができていべきである。これらの尊い賜物の育成がクリスチャンの生活にもちこまれなければならない。それは、主人であられるお方に召されたとき、自分の最高の力を用いて、自分の周りにいる人々を助け、祝福する準備ができていするためである。(レビュ・アソド・ヘラド 1907年5月2日)

11月20日

神は増し加えられる

「種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう。」(詩篇 126:6)

わたしたちの隣人たちが、パンがないために減びつつあるとき、もしわたしたちが彼らの必要を満たさないとしたら、とても無慈悲なことだと考えることであろう。わたしたちの中には、神のみ言葉を思ったことも、理解したこともない者たちがいる。彼らは命のパンがなくて減びつつあるのである。そして、これらの神聖な真理を自分たち自身のうちに取っておくなら、わたしたちは大変な利己心を表しているのではないだろうか。……

わたしたちの天父は、花が生き返り、野菜が芽を出し、繁茂するように、天から雨や露、また日光をお与えになる。しかし人が収穫を得るためには、土を整え、これらの種を土に埋めるという、自分たちの果たすべき分がある。もし彼が腕を組んで、「これらが育つままにほうっておこう……神が収穫を与えてくださる。このお方は、日光や雨を天から与えてくださる。だからわたしは楽にしよう」と言うなら、どんな収穫をもたらすことになるであろう。人は、神と協力して、土を耕し、種をまくという自分の役割を果たさなければならない。そのとき、神が増し加えてくださるのである。

わたしたちの天父は、人に救いを説教するために、天から御使たちを送ることはなさならなかった。このお方は、わたしたちにご自分のみ言葉の尊い真理をわたしたちに開き、それをわたしたちの心に植えてこられた。それは、わたしたちがそれを闇の中にいる人々に与えることができるためである。もし、わたしたちが本当に神のみ約束のうちにある神の尊い賜物を味わってきたならば、わたしたちはこの知識を他人に与えるべきである。……

わたしたちは、大いなる責任が自分たちに負わされているかのごとく、個人個人働かなければならない。わたしたちはこの働きのために、疲れを知らない精力と技能と熱心さを表すべきである。そして、自分たちの隣人や友人たちが危険のうちに置かれていることを感じて、重荷を取り上げるべきである。わたしたちは、キリストが働かれたように働くべきである。わたしたちは、真理をイエスのうちにあるがままに提示しなければならない。それは、魂の血がわたしたちの衣についていることのないためである。同時に、わたしたちは完全な依存を感じ、神に信頼しなければならない。なぜなら、わたしたちは、助けるためのこのお方の恵みと力なしには、何一つできないことを知っているからである。パウロが植え、アポロが水をやるかもしれない、しかし、神だけがそれらを増し加えることがおできになるのである。であれば、わたしたちは実際働きに出て行って、涙を流して、尊い真理の種をまき、増し加えてくださることを信じて神に信頼するのである。(原稿 79, 1886 年)

どのような者に？

「このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。」(ペテロ第二 3:11, 12)

神は、キリストの御名を帯びる人々が思想、言葉、そして行いにおいてご自分を表すことを期待しておられる。彼らの思想は純潔でなければならない。そして彼らの言葉と行いは高尚で向上させるものであり、自分たちの周りにいる人々を救い主にもっと近く引き寄せるものでなければならない。……特別な意味においてセブンスデー・アドベンチストは世において見張り人としてまた光を担う者として定められてきた。彼らに滅びつつある世のための最後のあわれみのメッセージが託されてきたのである。彼らの上には、神のみ言葉からすばらしい光が輝いてきた。そうであれば、彼らはどのような人になるべきであろう。

わたしたちの生活は、堅実な霊的成長を表すべきである。しかしわたしは、わたしを身震いさせるようなことを見てきた。それは品性において小人となっている男女である。彼らは、自分たちが救われるためには何をしなければならないかを教える神のみ言葉を持つてはいるが、聖化されておらず、聖い者でない。……

神の民の心に、恵みのもっと深い働きがなされる必要がある。もっと自己が少なく、そして、もっとキリストが多く見られなければならない。厳密で鋭いテストがすべての人に臨むのである。聖書の宗教が、わたしたちのなすこと、語ることすべてに織り込まれていなければならない。すべての商売上の……取引は神のご臨在が香るものでなければならない。……

わが兄弟姉妹方よ、わたしはあなたがたに、天の雲に乗ってこられるキリストの来臨に備えるようにと強く訴える。日毎に世の愛をあなたの心から捨て去りなさい。キリストとの交わりが何であるかを、経験によって理解しなさい。裁きに備えなさい。それは、キリストが、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるためにおいでになるときに、あなたが平安のうちにこのお方にお会いする人々の間にいるためである。その日には、贖われた者たちは、御父と御子の栄光のうちに輝き出てくる。御使たちは、自分たちの黄金の立琴を手に取り、王と、このお方の勝利の戦利品たち、すなわち小羊の血によって洗い白くされた人々を歓迎する。勝利の歌が鳴り響き、全天を満たす。キリストが勝利されたのだ。このお方は、ご自分の贖われた者たちを連れて、天の宮廷に入られる。彼らは、このお方の苦悩と犠牲の使命が無駄ではなかったことの証人たちである。(ビュー・アド・ワルド 1905年11月23日)

11月22日

聖霊の降下

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」(使徒行伝 1:8)

クリスチャンの教会は、聖霊を求めて祈ることによって存在するようになった。それは、キリストの人としてのご臨在がない幼児期であった。キリストは昇天の直前に、弟子たちに福音を世に宣べ伝えるようにと任命された。……

自分たちの主人のみ言葉に従って、弟子たちはエルサレムに戻った。そして、十日間、彼らは神のみ約束が成就するよう祈った。この十日間は、深く心を探る日々であった。弟子たちは彼らの間に存在していたすべての相違を取り除き、互いにクリスチャンの親交のうちに近づいた。……十日間の終わりに主はご自分の聖霊のすばらしい降下によってご自分の約束を果たされた。彼らが、「みんなの者が一緒に集まって」祈り、嘆願していたとき、約束された祝福がもたらされたのである。……

ペンテコステの日の聖霊の降下の結果はどのようなものであったであろうか。よみがえられた救い主の喜ばしい知らせは、人の住む地の最果てにまで伝えられた。弟子たちの心は慈善によって、十分に、深く、広範囲に満たされ、それによって彼らは地の果てにまで押し進んだのであった。(レ・ユー・アソ・ヘラルド 1908 年 4 月 30 日)

キリストの恵みによって、使徒たちはあのような人物になった。彼らをこのお方との緊密な交わりのうちにいれたのは、誠実な献身とへりくだりだった。熱心な祈りによってであった。彼らは天国でこのお方と共に座したのであった。彼らは自分たちがこのお方に負うところがいかに大きいかを悟った。熱心で辛抱強い祈りによって、彼らは、天から与えられる聖霊を我が物としたのであった。そしてその時から彼らは魂を救うという重荷を負って、十字架の勝利を広める熱心さに満たされて出て行ったのである。……

わたしたちは使徒たちより熱心さが足りなくてよいであろうか。わたしたちは生きた信仰によって、約束を主張しないであろうか。その約束が、彼らに自分の存在の奥底まで探らせ、主イエスに「求めなさい、そうすれば与えられるであろう」というお方のみ言葉の成就を叫び求めさせたのである(ヨハネ 16:24)。神の御霊は今日、熱心で辛抱強い祈りに答えて、人々を力で満たしてはくたさらないのであろうか。(教会への証 7 卷 32)

約束はわたしたちのためである

「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとするれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあるのか。」(ルカ 11:13)

わたしたちは、聖霊の降下を求めて、弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、熱心に祈るべきである。もし彼らが、そのときに聖霊の力を必要としていたとするれば、わたしたちは今日それをもっと必要としている。あらゆる種類の偽りの教理、異端、そして欺瞞が人の思いを誤り導いている。そして、聖霊の助けなしには、わたしたちが神の真理を提示しようとする努力はみな空しいのである。(ビュー・アズ・ヘルド 1903年2月10日)

神は、ご自分の民にご自分の愛のうちに新たにバプテスマを授け、聖霊の賜物によって彼らを回復なさろうと望んでおられる。教会に御霊が欠乏している必要はない。キリストの昇天後、聖霊は、待ち、祈り、信じる弟子たちに満ち満ちて、すべての人の心に届く力をもって注がれたのである。将来、地は神の栄光で明るくされる。聖なる感化力が真理によって聖化される人々から世に向かって出て行くのである。地は恵みの大気で囲まれる。聖霊が人間の心に働いて、神の事柄を取り上げて、それらを人々に示すのである。(同上 1905年11月23日)

キリストは聖霊の神聖な感化力が時の終わりまでご自分に従う者たちに伴うと宣言された。しかし、約束は、感謝されるべきほど感謝されていない。そして、そのために、約束の成就が見られてもいいのに、見られないのである。……重要でない事柄が注目を集め、教会の成長と繁栄のために必要であり、またその他のすべての祝福を次々ともたらす神の力が欠けている。しかし、それは無限の豊かさをもって差し出されているのである。……

わが兄弟姉妹方よ、聖霊を求めて嘆願しなさい。神は、ご自分がなされたすべての約束の背後に控えておられる。あなたの聖書を手に持って、「わたしは、あなたが仰せになったことを行いました。わたしはあなたのみ約束を提示します、『求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう』(マタイ 7:7)。キリストは「そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになんてと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」と宣言された(マルコ 11:24)。「わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう……」(ヨハネ 14:13)。(同上 1908年4月30日)

11月24日

聖霊の深い感動

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。彼は真理の御霊である。この世はそれを見ようとせず、知ろうともしないので、彼を受けることができない。あなたがたは彼を知っている。なぜなら、彼はあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」(ヨハネ 14:16, 17 英語訳)

神の民は、この約束を理解し、適用することができないかのようである。彼らは、渇いた魂の上に、ほんの乏しい雨が注がれるのだと考えているかのようである。……彼らは、無限の価をもって彼らのために差し出されている高められた特権に手を伸ばす必要を感じてこなかった。……

神の恵みの富が人々にあふれないのは、何も神の側で制限があるからではない。……もし、すべての人が受けることを望むのであれば、すべての人が聖霊に満たされるのである。小さな祝福で満足していることによって、わたしたちは、無制限の満ち満ちた聖霊を受けるのにふさわしくない者となっている。わたしたちは、神の聖霊の深い感動を期待することが自分たちの特権であるのに、あまりにも簡単に、表面のさざ波で満足してしまう。ほとんど期待しないからほとんど受けないのである。

聖霊の働きの必要がすべての人に理解されるべきである。聖霊の働きは、全人格を新たにし、聖化することであるが、この聖霊がキリストの代表者として受け入れられ、大事にされない限り、人類に委託されてきた重大な真理は、思いにもたらずその力を失ってしまう。わたしたちは、真理の知識を持つだけでは十分ではない。わたしたちは、愛のうちに歩み、働き、自分たちの意志を神の意志に一致させるべきである。こうする者たちについて、主は、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心書きつけよう」と宣言なさる(ヘブル 8:10)。……こうして、神聖な関係が、神と人との間に新たにされる。このお方は『わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう』。わたしの性質には、人がわたしのかたちを表すことができるために惜しみなく与えずにいるような特質は何もない」と仰せになる。……

わたしたちは、いつもわたしたちの前に置かれた目標、すなわちこのお方のご品性の完全さに向かって前進しつつ、このお方の満ち満ちた徳を求めているであろうか。主の民がこの目標に達するとき、彼らは、その額に印を押される。聖霊に満たされて、彼らは、キリストにあって完全になるのである。そして、記録の天使は、「すべてが終わった」と宣言する。(レビュー・アソッド・ワルド 1902 年 6 月 10 日)

すべての人が持つことのできる賜物

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ 14:26)

キリストがご自分の昇天後に送ると約束された慰め主は満ちみちているいつさの神の徳のある聖霊であって、キリストを個人的な救い主として受け入れ信じるすべての人に神の恵みの力を明らかにされる。天のトリオであられる生きたお三方がおられる。この三つの偉大な御力、すなわち御父、御子、そして聖霊のみ名において、生きた信仰によってキリストを受け入れる人々はバプテスマを受け、そしてこれらの御力が従順な者と協力してくださるのである。(伝道 615)

真理を聞く特権に預かってきた人々、そして聖霊によって神聖な聖書を神のみ声として受け入れるように印象付けられた人々には、宗教生活において小人になることに対して何の言い訳もできない。神が与えてくださった能力を働かせることによって、彼らは日毎に学び、日毎に霊的な熱心さと力を受けているべきである。
.....

もしわたしたちが主の園で育つ植物になりたいのであれば、わたしたちは常に霊的な命と真剣さの供給を受けなければならない。そのとき、わたしたちの主イエス・キリストの信仰と知識のうちに成長が見られるようになる。わたしたちが責任をふりほどいて、道すがら休息を得られるような休憩所はない。わたしたちは、絶えず天にむかって前進し、堅固な宗教的品性を発達させなければならない。わたしたちが受ける聖霊の量は、わたしたちの願いとそのために働かせる信仰の量に比例している。.....

キリストは「すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである」と仰せになる(マタイ 7:8)。真にキリストの尊い恵みを捜し求める人は、確かに失望することがない。この約束は、わたしたちを欺くことのないお方によって与えられたのである。それは格言や理論ではなく、事実として、また神の統治の律法として述べられているのである。わたしたちは、自分たちが各々神のみ言葉を試す実験をしてみるならば、聖霊を受けることを確信することができる。神は真実である。このお方の秩序は完全である。……光と真理が魂の願いに応じて輝き出る。ああ、どうかすべての者が、満たされることができるよう、義に飢え渴くように。(レビュー・アンド・ヘラルド 1896年5月5日)

11月26日

聖霊によってキリストに行くことができる

「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、彼をあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ 16:7 英語訳)

キリストは「わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ」と仰せになった。そのときは、だれ一人、場所やこのお方との個人的な接触によって優先権を得ることはなかった。救い主は、すべての人が霊的に等しく近づくことのできるお方となるのであった。そして、この意味において、このお方は上に昇天ならなかった場合より、もっとわたしたち全員に近くなってくださいるのであった。今や皆等しく、このお方を眺め、このお方のご品性を反映することができる。信仰の目は、このお方がいつも、あらゆるこのお方の慈しみ深さに、恵みに、寛容に、礼儀正しさに、そして愛のうちにご臨在下さるのを見ることができる。……そしてわたしたちが眺めるとき、わたしたちはこのお方に似た者に変えられるのである。(ビュー・アソド・ヘラルド 1912 年 12 月 5 日)

わたしたちのだれにとっても、自分自身の力や、この変化を自分のうちに起こそうとする自分自身の努力によっては、これは不可能である。イエスがこの世に送ってくださるといわれた聖霊、すなわち慰め主がわたしたちの品性をキリストのみかたちへと変えてくださるのである。そして、これが成し遂げられるとき、わたしたちは主の栄光を鏡に映すように映すのである。こうして、このようにキリストを眺める者の品性が、あまりにもこのお方の品性に似ているので、その人を見る人はキリストご自身のご品性が鏡のように輝き出ているのを見るのである。自分自身では気づかないが、わたしたちは日ごとに自分の方法と意志からキリストの方法と意志へ、このお方のご品性の麗しさへと変えられる。こうして、わたしたちはキリストへと成長し、そして無意識のうちにこのお方のみかたちを反映するのである。……

エノクは、いつも主を自分の前に置いた。そして、靈感の言葉は彼が「神と共に歩んだ」と述べている。彼はキリストをいつも伴侶とした。彼は世にいて、世に対する自分の義務を果たした。しかし、彼はいつもイエスの感化の下にいた。彼は、キリストのご品性を反映し、いつくしみ深さにも、あわれみにも、やさしい思いにも、同情にも、寛容にも、柔和にも、へりくだりにも、そして愛にも同じ資質を表した。彼がキリストと交わることによって、彼は日ごとに自分がこれほど緊密に結びついてきたお方のみ姿へと変えられていった。日ごとに彼は、自分自身の方法からキリストの方法へと、すなわち彼の思想と感情において、天の、また神の方法へと成長していった。……彼の成長は継続的なものであり、彼は御父と御子との交わりを持っていた。これが真の聖化である。(同上)

後の雨

「あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる。」(ゼカリヤ 10:1)

わたしたちの天父は、わたしたちができないことを、わたしたちの手からお求めになることはない。このお方は、自分たちに対するご自分のご計画を実行するために、ご自分の民が熱心に働くことを望んでおられる。彼らは力を求めて祈り、力を期待し、そして力を受けるべきである。それは、彼らがキリスト・イエスにある満ち満ちた徳の高さの男女へと成長することができるためである。

すべての教会員が個人的な敬神を培っているのではない。それゆえに、彼らは自分たちの個人的な責任を理解していない。彼らは、クリスチャンの完全という高い標準に達することが自分たちの特権であり、また義務であることを悟っていない。……わたしたちは、後の雨を心から待ち望み、良き日、すなわち教会が上よりの力を賦与されて、それによって働きにふさわしいものとされるときを確信して望み見ているのであろうか。後の雨は、決して、神が自分たちに与えてこられた力を活用しない怠惰な者を回復させたり、活気付けたりはしないのである。(レビュー・アンド・ハラルド 1906 年 5 月 17 日)

わたしたちは霊的な命に栄養を与え活気づける、純潔で命を与える雰囲気が大いに必要としている。わたしたちはもっと真剣さが必要である。わたしたちが世に与えるために与えられている厳粛なメッセージがもっと大きな熱情をもって、未信者にさえ印象づけて、いと高き者がわたしたちと共に働いておられ、またこのお方がわたしたちの力と強さの源であることを理解するようにと導くような熱意をもって宣布されるべきである。……

神は、わたしたちにご自分の王国を建設するために用いるようにとタラントを与えてこられた。……わたしたちは自分の主がわたしに授けてくださったタラントをどのように用いているであろうかと自問しているであろうか。あなたは……神にほんの弱々しい病んだ奉仕しか捧げてこなかったのではなかろうか。……

あなたは失われた羊を囲いに連れ戻すために、全力を尽くしているであろうか。無知の中にいて警告を受けることができたはずの魂が幾千に次ぐ幾千という。あなたはキリストの力を求めてかつて祈ったことがないほど祈りなさい。聖霊の靈感を求めて祈りなさい。それはあなたが、滅びつつある人々を救う願いに満たされるためである。次の祈りが天に昇るように。「どうか、神がわれらをあわれみ、われらを祝福し、そのみ顔をわれらの上に照されるように。これはあなたの道があまねく地に知られ、あなたの救の力がもろもろの国民のうちに知られるためです」(詩篇 67:1, 2)。(同上)

11月28日

メッセージをこだまさせなさい

「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。」(黙示録 22:17)

天の王座へと昇天なさる直前に、キリストは、ご自分の弟子たちに、義の教師として全世界に出て行く任務をお与えになった。……任務が与えられた信者の中には、つつましい生活の歩みから来た者が多かった。すなわち、自分たちの主を愛することを学び、このお方の自己犠牲の奉仕の模範に従うことを決心した男女たちである。限られたタラントしかもっていないこれらの謙遜な人たちにも、救い主の地上での奉仕の数年間このお方と共にいた弟子たちと同様「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」との任務が与えられたのである(マルコ 16:15)。

初期クリスチャン教会のメンバーたちに、聖なる信任が与えられた。彼らは、キリストがその中で永遠の命の宝を世に残された遺言の実行者とならなければならなかった。……初期の弟子たちに与えられた信任に、各時代の信者たちも預かるのである。神は、すべての信者が救い主の遺言の実行者となることを望んでおられる。……過去の時代における神の民の無私の働きは、今日の神の僕たちにとって、実物教訓となり、励ますものとならなければならない。今日、神の選ばれた民は、良い働きに熱心になり、あらゆる世的な野心から離れて、心のへりくだったナザレ人のみ足の跡に従って謙遜に歩むべきである。

「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい」。他の人々に来なさいと命じるこの任務には、教会全体が含まれ、キリストを個人的な救い主として受け入れた一人一人に当てはまる。……神の招きを聞いたすべての魂はメッセージをこだまさせるべきである。……接触するすべての人たちに、「きたりませ」と言わなければならない。改心の瞬間から、キリストを受け入れた者たちは、世の光となるべきである。……

聖霊はキリストの代表者であって、最も弱い者を勝利に向かって押し進むための力をもって武装させてくださる。……ある人ができる働きは、環境によって制限されているように見えるかもしれない。しかし、それがどこであっても、信仰と勤勉さを持つてなされるならば、それは、地の最果てにまで感じられるのである。(ビュー・アソド・ヘラルド 1910年3月24日)

警告されるべき世

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ 24:14)

太陽光線が地球の最も遠い隅々にまで差し込むように神は福音の光が地にいるすべての魂に及ぶようにと計画された。……今の時代に、すなわち敵がかつてなかったほど男女の思いを夢中にさせるために働いているとき、わたしたちは、ますます活動を増し加えて、働いているべきである。勤勉に、私欲なく、わたしたちは諸都市、すなわち道やかきねのところで、最後のあわれみのメッセージを宣布しなければならない。あらゆる階級の人々に伝えられなければならない。わたしたちが働くとき、わたしたちは、異なる国籍の人々に出会うであろう。だれ一人として警告を受けずに見過ごされてしまうことがあつてはならない。主イエスは世界全体への神からの賜物であった。高い階級の人々ばかりでなく、また、ほかの人々を除外してある国民だけに与えられたのでもない。このお方の救う恵みは世を包含している。だれでも望む者は、命の水から飲むことができる。世は現代の真理のメッセージを聞くのを待っている。……

恵みの王国は、日ごとに罪と反逆に満ちていた心が、このお方の愛の主権に服するとき、今設立されつつあるのである。しかし、このお方の栄光の王国の完全な設立は、キリストが世に再臨なさるときまで起こらない。「国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる」のである(ダニエル 7:27)。……

天の門は再び上げられて、千々万々の聖なる者たちを従えて、わたしたちの救い主は「もろもろの王の王、もろもろの主の主」として出てこられる(テモテ第一 6:15)。エホバ、インマヌエルは、「全地の王となられる。その日には 主ひとり、その名一つのみとなる」(ゼカリヤ 14:9)。「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、……神自ら人と共にいまして」(黙示録 21:3)。

しかし、再臨なさる前に、イエスは、「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう」と仰せになった。このお方の王国は、このお方の恵みの良き知らせが、全地に伝えられるときまで来ないのである。(ビュー・アンド・ワルド 1912 年 11 月 14 日)

11月30日

勝利の日

「見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである」。(黙示録 22:7)

わたしたちは急速にこの地上の歴史の終わりに近づいている。そして、イエスが本当にまもなく来られようとしているのを悟るとき、わたしたちはかつてなかったほど働くために立ち上がることであろう。……わたしたちは、「神の戒めとイエスの信仰」と記された御旗を掲げなければならない。神の律法への服従は大問題である。それを見失わないようにしよう。……

主は、第三天使のメッセージを宣布する働きがますます増し加わる力をもって遂行されるのをご覧になりたいと望んでおられる。このお方が各時代においてご自分の民に勝利を与えてこられたように、この時代にもこのお方はご自分の教会のために、ご自分のご目的の勝利の成就をもたらしたいと切望しておられる。このお方は、信じる聖徒たちに一致して前進し、力からますます大きな力へ、信仰から、ますます増し加わる神のみ働きの真理と義を信じる確信と信頼へと進むようにお命じになる。

わたしたちは、神が共にいて、わたしたちに新しい経験に会う毎に力を下さることを覚えて、神のみ言葉の原則に岩のように堅く立たなければならない。わたしたちは生活において、義の原則をいつも維持していよう。……わたしたちのごく最初の経験から現代にいたるまで神の御霊の支持と是認によって具現化されてきた信仰を最も聖なるものとしてつかんでいなければならない。わたしたちは、主がご自分の律法を守る民を通して遂行してこられた働き、また時が進むにつれて、このお方の恵みの力を通して、ますます強力に、またますます力あるものに成長していく働きを最も尊いものとして、大事にしなければならない。敵は、神の民の識別力を曇らせ、彼らの力を弱めようとしている。しかし、もし彼らが、神の御霊の命じられるままに働くならば、このお方は彼らの前に久しく荒れすたれたところを興す働きのために、機会の戸を開いてくださるのである。彼らの経験は、主が天から力と偉大な栄光のうちに下って、ご自分の最終的な勝利のしるしをご自分の忠実な者たちの上に押されるためにおいでになるときまで、絶えず成長するものとなる。

わたしたちの前におかれているこの働きは、人間のあらゆる力を働かせる働きである。……イエスはあなたと共におられる。……そして、このお方はあらゆる危急の時にあなたの助けとなられる。(レクティッド・メッセージ 2 巻 402 - 408; 19013 年の世界総会に送られた夫人の最後のメッセージより)

キリストと律法 (V)



律法と福音

ユダヤ人がキリストを拒んだとき、自分たちの信仰の基礎を拒んだのであった。また、その一方で、キリストを信じる信仰を主張しながら神の律法を拒む今日のクリスチャン世界は、欺かれたユダヤ人たちと同様の過ちを犯している。キリストにすがりつくと言明し、自分たちの希望をこのお方に集中させていながら、一方では道徳律や預言に侮蔑をあびせる人々は、不信のユダヤ人より安全な立場ににいるのではない。彼らは、思いやりをもって罪人に悔い改めるように呼びかけることができない。なぜなら、彼らは何を悔い改めるべきか適切に説明することができないからである。罪人は自分の罪を捨てるように訓告されるとき、罪とは何か、とたずねる権利がある。神の律法を尊ぶ人は、罪とは律法の違反であると答えることができる。このことを確認して、パウロは次のように言っている、わたしは律法によらないで罪を知らなかったと。

道徳律の拘束力を認める人々だけが、贖罪の性質を説明することができる。キリストは神と人の間を仲保するために、すなわち人を神の律法への忠誠に導き入れることによって、人を神と一つにするために来られた。律法には、違反者を許す力はない。イエスだけが罪人の負債を支払うことができた。しかし、イエスが悔い改めた罪人の負債を支払われたという事実が、罪人に神の律法の違反のうちにい続ける許可を与えたのではない。かえって、彼はそれ以降、その律法への従順のうちに生きなければならないのである。

神の律法は、人の創造以前から存在していた。そうでなければ、アダムは罪を犯すことができなかったはずである。アダムの違反の後、律法の諸原則は変更されなかった。かえって、はっきり整備され、墮落した人間の状態に合うよう

に表現された。キリストは、ご自分の御父との協議において、犠牲の捧げものの制度を制定された。こうして死が直ちに違反者たちに臨む代わりに、神の御子という偉大にして完全な捧げものを予表する犠牲に移されるのであった。

民の罪は、民のための仲保者であった職務をはたす祭司に象徴的に移された。祭司は自ら罪のための捧げものとなり、自分の命をもって贖罪をなすことはできなかった。なぜなら、彼も罪人であったからである。そこで、自分が死を受ける代わりに、彼は傷のない小羊を殺した。罪の刑罰は、無実の獣に移された。こうして彼は直接的な身代わりとなり、イエス・キリストの完全な捧げものを象徴した。この犠牲の血を通して、人は世の罪のために贖罪をなすキリストの血に対する信仰によって、将来に目を向けたのであった。

礼典律の目的

もしアダムが神の律法を犯さなかったならば、礼典律は決して制定されることはなかった。良き知らせの福音は、女のすえがへびの頭を砕くという彼に対する宣言のうちに、最初にアダムに与えられた。そしてそれは続く世代に、ノア、アブラハム、モーセへと受け継がれていった。神の律法の知識と救いの計画は、アダムとエバに、キリストご自身によって与えられた。彼らは注意深く重要な教訓を大切にし、口の言葉によって自分の子供たち、また子供の子供たちへ伝えていった。こうして神の律法の知識は保存された。

当時、人はおよそ一千年近く生きた。御使たちがキリストからの直接の指示をもって彼らを訪れた。犠牲の捧げものを通して神の礼拝が制定された。そして神を恐れる人々はこのお方の前に自分たちの罪を認め、明星が来るときを感謝と聖なる信頼をもって将来に眺めた。この明星が、神に対する悔い改めとわたしたちの主であり救い主であられるイエス・キリストに対する信仰を通して、墮落したアダムの子らを天にまで導くのであった。こうして福音が一つ一つの犠牲のうちに宣布された。そして信徒たちのわざはたえず、来たるべき救い主を信じる彼らの信仰を表した。イエスはユダヤ人たちに言われた、「もし、あなたがたがモーセを信じたならば、わたしをも信じたであろう。モーセは、わたしについて書いたのである。しかし、モーセの書いたものを信じないならば、どうしてわたしの言葉を信じるだろうか」(ヨハネ 5:46, 47)。

しかし、アダムが自分の模範と規則によって、自分の違反が人にもたらした苦

悩の潮を止めることは不可能であった。不信が人の心の中に忍び込んだ。アダムの子らは、神のご要求に関して人がとった二つの異なる道のりの最古の例を提示している。アベルは犠牲の捧げもののうちにキリストが象徴されていたのを見た。カインは犠牲の必要性に関して不信者であった。彼はほふられた小羊によって象徴されていたキリストを理解することを拒んだ。獣の血は彼に徳のないものに思われた。福音は、カインの兄弟と同様に、カインにも伝えられたが、彼にとっては死から死に至る香りであった。なぜなら、彼が犠牲の小羊の血の中に、人の救いのためになされた唯一の備えであるイエス・キリストを認めようとしなかったからである。

わたしたちの救い主は、その命と死において、ご自身を指し示していたすべての預言を成就された。そしてこのお方こそ、すべての型と影の意味していた実体であられた。このお方は、道德律を守られ、人の代表としてその要求にこたえることによって、律法を高められた。イスラエルの主に向きを変え、象徴的な犠牲によって予表されていた実体としてキリストを受け入れた人々は、廃されたものの目的を識別していた。ユダヤ人の体系を幕のように覆っていた暗がりは、モーセの顔にあった栄光を隠していた覆いのようにであった。モーセの顔に輝いていた栄光は、キリストが人の益のためにこの世に持ち込むために来られた光を反射したものであった。

モーセが山でただ神とだけいた間に、アダムの墮落から始まった救いの計画が最も強力な方法で彼に表された。そのとき彼はイスラエルの子らの旅路を導いてこられた御使そのお方が肉体となって表されるようになることを知った。神のいと子、御父と一つであられるお方が、ご自分を信じ、信頼するすべての人を神と一つになさるのであった。モーセは犠牲の捧げものの真の意味を見た。キリストはモーセに福音の計画をお教えになり、福音の栄光は、キリストを通して、モーセの顔に輝いたために、民はその顔を見ることができなかったのである。

モーセ自身は、自分の顔から反射し光を放っていることに気づけなかった。また自分がイスラエルの子らに近づいたときに、彼らがなぜ自分から逃げたのかがわからなかった。彼は自分の許へ来るようにと彼らと呼んだが、彼らはその栄化された顔をあえて見ようとしなかった。民がモーセの顔の栄光のために、それを見ることができないのだということがわかったとき、彼は自分の顔に顔おいを当てた。

モーセの顔に輝いた栄光は、神の聖なる律法を犯していたゆえに、イスラエルの子らにははなはだしく苦痛であった。これは神の律法を犯す人々が感じることの例証である。彼らは違反者には恐怖であるその刺しとおす光からのがれたいと思った。一方、忠実な者にとっては、聖にして正しく、善なるものとして見えるのである。神の律法を正當に評価をする人々だけが、御父の律法の違反によって必要とされたキリストの贖罪を正しく評価できるのである。

旧約の時代には救い主はいなかったという見解をいただく人々は、キリストを拒んだユダヤ人と同じように、自分たちの理解力に暗い覆いをかけているのである。ユダヤ人はキリストを象徴していた犠牲の捧げもののうちに、来たるべきメシヤを信じる自分たちの信仰を認めていた。それでいながら、イエスが現れたとき、約束されたメシヤのすべての預言を成就し、神聖な神の御子としてこのお方を特徴づけていたわざをなしておられたが、彼らはこのお方を拒み、このお方の真実なご品性の最も明白な証拠を受け入れることを拒んだ。キリスト教会は、その一方で、キリストを信じる最高の信仰を公言しているが、ユダヤ人の制度をさげすむことによって、事実上、キリストを否定している。キリストこそ、ユダヤ人制度全体の創始者であられた。(セレクトド・メッセンジ 1 巻 229-232)

「何ですか？」とたずねました。

「の父」と彼女が答えました。

そこで、わたしは自分の聖書を開いて、マタイ 1 章のページをめくりました。そして、そうです、そこにありました！「アブラハムはイサクの父であり、イサクはヤコブの父、ヤコブはユダとその兄弟たちとの父、」とつづきます。

わたしは彼女に、その意味がわかるかを聞いてみました。すると、彼女は、「知りません、でもわたしは『の父』が好きなのです。」

ですから、わたしは彼女に、アブラハムには小さい男の子があつて、イサクには小さい男の子があつて、ヤコブには小さい男の子があつてとつづくことを教えてあげました。彼女は、いま『の父』の家系図（かけいず）が一番好きだと思います。

それから、わたしは彼女に、今度は逆にして教えてあげました。そうすると、「ヤコブにはお父さんがいて、イサクにはお父さんがいて、アブラハムにはお父さんがいて」とつづきます。

彼女はその方がもっと好きでしたが、その物語がどこまでつづくのかなと思ひました。わたしは、ルカがそのことについて話しているのを教えてあげました。

ルカ書の 3 章 34 節には、アブラハムから始めて、それをずっと、ずっと、ずっとさかのぼっています。彼はわたしたちに、アブラハムはテラのむすこで、「ナホル、セルグ」とつづきます。なんとおもしろい名前でしょう！しかし、それらはむかしむかし、本当にいた男の子の名前なのです。

それから、アブラハムのおじいさんや、ひいひいおじいさん、そのつづきの名前をのべたあと、ルカはエノスはセツのむすこであり、「アダム、」そしてとても、とてもすばらしいことに、「神にいたる」！

そこで、物語は終わります。そしてそこで終わるのは、それ以上ないからです。はっきりと神様にもどって、そこで終わります。

そしてそこが、みなさんのもどるところです。そしてお父さん、お母さんも。そして、みんなのお父さんとお母さんも。みんなのひいおじいさんやひいおばあさんも。彼らはみんな、何年もこえて、何世紀もこえて、神さまにいたるのです。

サルにはありません。海にいるオタマジャクシにでもありません。そうではなく、世界と人類を造られた大いなる栄光にみちた神さまにいたるのです。そして、それはまさに聖書の最初の章の最初の言葉「はじめに神は」とあるとおりなのです。

カボチャと豆のアヒージョ

■材料

カボチャ	200g
ミックスビーンズ（水煮）	200g
パセリ（みじん切り）	大さじ 2

<アヒージョのベース>

オリーブ油	200ml
塩	小さじ 1
ニンニク	1 片
ししとう	2 本

■作り方

1. <アヒージョのベース>のニンニクは皮をむいて縦半分に切って芽を取り、包丁で軽く潰しておきます。ししとうは、種を取って、四等分します。
2. カボチャは種とワタを取り、皮つきのまま厚さ 5mm にスライスします。ミックスビーンズは、ザルに上げて水気をきります。
3. 小鍋に<アヒージョのベース>の材料を入れて中火で熱し、香りがたったら (2) を加えて中火で 5 ～ 10 分、カボチャが柔らかくなるまで加熱し、パセリを散らします。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第2話

はじめる(II)

山々や木の茂った丘、流れる川や海岸の砂のこと—自然のすばらしいすべてのもの—も考えてみましょう。それらはずっと、ちょうど今あなたが見ているように、そこにあったのでしょうか？あるいは、それらはいつか始まったのでしょうか？もし、そうであれば、いつ、どのように始まったのでしょうか。

多くの偉人（いじん）たちがこれらのことを説明しようところみてきました。そして彼らはみな、あらゆる種類のおかしな考えを思いついたり、連想したりしましたが、それらのほとんどは真理とはかけはなれたものでした。

みなさんが真実な話を見つけることのできるただ一つの場所があります。それが、聖書です。もしみなさんがこのすばらしい書物を開くなら、一番最初に「創世記（そうせいぎ）」というところを見つけるでしょう。それは始まりの書という意味です。ここに、みなさんのすべての質問に対する答えがあります。

そして、わたしはある知っているひとりの女の子のことを思い出します。



以前、わたしはその子に聖書の中でどの章が一番好きかを聞きました。わたしは、彼女が「詩篇（しへん）23篇」と答えると思ったのです。その章は、「主はわたしの牧者（ぼくしゃ）であって」と始まります。しかし、答えはちがいました。彼女は、マタイ1章と答えました。

「たぶん、その章がどのようにイエスさまがお生まれになったかを教えているから好きなんだね」と言いました。

「いいえ」と彼女は答えました。「わたしはそれを好きなのは、それがぜんぶ『の父（begats：子をもうける）』についてだからです。」